

公募型研究概要説明

◆公募する所内の研究計画 大規模空港における継続降下運航の運用拡大に関する研究 名称 安全間隔を考慮した CCO（継続上昇運航）の研究（仮） 研究期間		
研究分野	要望研究期間	研究形態
航空交通管理	3 年程度	請負または共同
◆研究目的 CDO と安全間隔を確保した CCO 経路及び CDO 機への制限を出発前に設定することで、CDO のキャンセルが減少する。 状況の変化に即座に対応することが必要であるために、短時間でかつ確実に最適パスが得られるアルゴリズムを検討する。		
◆研究分野における位置づけ及び動向、解決すべき課題、問題点など CARATS では「継続的な上昇・降下の実現（OI-13）」をめざしている。 CCO は航空機の性能に応じた継続的な上昇による運航であり、消費燃料の削減及び騒音低減に寄与する。羽田空港でも西行き出発経路の一部に CCO の運用を始まる予定である。しかし、上昇率は重量により異なるため到着機との安全間隔確保のために、出発機、到着機それぞれ水平飛行を行い交差させる場合がある。 これからは CDO による到着機も増加していくので、柔軟幅の少ない CDO 機を優先させつつ CCO を実施するためにパスの最適解の導出が必要である。また、安全間隔を確保していても上昇率、降下率によっては TCAS の RA が発生するためそれが発生しない上昇・降下率が必要である。		
◆目標 出発前に CCO の最適経路を設定することで、CDO 実施機や先行 CCO 機との間隔を確保する。1 分以内に解の導出を行う。		
◆期待する成果 CDO による到着機、あるいは CCO を実施する先行出発機と間隔をとりつつ、効率の良い CCO パスを主発前に設定する。これにより出発パスの予測精度が向上し、CDO の制限緩和にもつながることが期待できる。		
◆提供資料等		